新潟トヨタ 新潟キセキ が新たに進出

来年八月には四社が操業

北部工業団地

九月五日、北部工業団地への進出企業と市との協定書調印式が、市役所で行われました。今回調印したのは、新潟トヨタ自動車㈱（本社・新潟市、等々力英男社長）と新潟キセキ販売㈱（本社・新潟市、河原武幸社長）の二社で、両社とも同団地に本社を構えることにしています。

55％が予約済み

二社の取得予定面積は、新潟トヨタ自動車一万六千五百二十九平方㍍、新潟キセキ販売一万三千二百二十三平方㍍の計二万九千七百五十二平方㍍で、前に調印した六企業の面積を加えると十万七千六百十二平方㍍となり、全体の五五・七％が予約済みとなりました。

新潟トヨタ自動車は、今まで同社を含む県内のトヨタ系販売会社七社が、各社でバラバラに行っていた部品の管理や供給を、新会社を設立して一元化を図り、流通部門の合理化をねらって進出することになったものです。

新会社の設立は、今後七社の担当者を交えたプロジェクトチームで進めますが、来年四月着工、同年八月開業を目指しており、従業者数は百人の予定です。

同社が今回進出を決めたのは、県内全域の流通基地として、県のほぼ中央に位置するなど最適と判断したためです。

一方、新潟キセキ販売は農機具の販売、整備などを行っており、今回の進出は ①敷地が手狭になった ②周囲に住宅が密集し、修理の音に気を使うようになった ③倉庫が本社と離れて不便―などの理由からで、本社、工場、倉庫をそっくり移転して、本社機能の充実を図ることにしています。

新社屋は、年末か来年早々には着工し、同年五月ころには営業を開始する予定で、従業者数は九十人の予定です。

誘致促進に情報提供を

進出が決定している企業は、七月九日、第一次に調印した川上硝子工業㈱、㈱スタンレー新潟製作所、ダイニチ工業㈱、㈱ホンマ製作所、㈱皆木勝栄商店、㈱建設技術開発センターの六社を含め八社となりました。

そのうち、現在工事中の川上硝子工業は、来年三月までに操業開始を、スタンレー新潟製作所は年内操業開始をそれぞれ予定しており、来年の八月には四社が操業や営業を開始することになります。

しかし、まだ工場敷地面積の四四・二％が企業の進出を待っています。

皆さんの中で、北部工業団地への進出可能な企業や、手狭などのため他への移転を考えている企業などを知っている人がいたら、情報を商工課（☎㈹217）へお知らせください。ご協力をお願いします。

市政短信

第二埋め立て地に着手

白根衛生センター組合は、来年三月までの工期で、第二埋立処分地施設の整備工事を行っており、総工事費は一億四百八十万円です。

これは、ゴミを焼却したときの残灰を埋め立て処分するための施設で、規模は深さ四・四㍍、埋め立て容量二万一千六百十三立方㍍となっており、使用期間は六十二年から六年間です。

現在の処分地は五十三年度に設置したもので、容量は二万九千六百立方㍍でしたが、ゴミの量が年々増えてきたこと、焼却炉の処理能力が落ちてきたことなどのため、残灰が多くなり、八年間でその役目を終わることになりました。

昨年焼却炉を改良したことにより、燃焼の割合が高くなりましたが、それでも一日十四・五トンの残灰が出るのです。

新しい処分地は、底と周りを遮（しゃ）水シートで囲い、汚水が外に浸透するのを防ぐとともに、出た汚水は、排水処理場で完全に処理します。また、埋め立て方法も臭気とゴミの飛散防止のため、ゴミと土を交互に埋めるサンドイッチ方式をとり、常に土壌を好気性に保ちます。

さらに、処分地が県道に面していることから、県道側に目隠しフェンスを張り、植樹をして緑地帯をつくるなど、環境美化にも心がけています。

もうすぐいっぱいになる現在の処分地

工事中の新しい処分地

議会の動き

9月定例会

身障者用便所と自動ドアを設置

一般会計は六十億五千七百万円に

昭和六十一年第三回市議会定例会は、九月十八日から会期七日間で開かれ、この定例会では教育委員会委員の任命、住居表示、印鑑条例の一部改正、一般会計補正予算などをそれぞれ議決しました。

可決された主な議案

●住居表示を実施すべき市街地の区域及び住居表示の方法

年次的に進めてきた住居表示を、新たに国道から西側の大字能登、白根、上下諏訪木、白根ノ内七軒、戸頭の一部にも実施します。

●印鑑条例の一部改正

いままで印鑑登録証明書は複写でしたが、十月からコンピューター処理により発行されます。

●昭和六十一年度一般会計補正予算（第二号）

歳入、歳出とも、それぞれ二億九千八百五万一千円を追加し、予算総額を六十億五千七百二十三万円としました。

補正の主なものは、歳出は市役所庁舎に身体障害者用の便所設置と正面玄関を自動ドアにするための工事費二百二十八万円、成人病検診の委託料三百三十五万円、衛生センター組合などへの負担金一億八千五百八十一万円、総合体育施設の基本設計及び測量の委託料一千三百五十万円、歳入財源の主なものは、地方交付税、国庫補助金、県補助金、市債などとなっています。

同意された人事案件

▼教育委員会委員の任命

吉川文雄さん（五十五歳・中央通）を任命。任期は四年で、三期目。

スポーツ大会結果

●市長杯争奪第4回市民ゴルフ大会

（9月7日。湯田上カントリークラブ。56人参加）

優勝＝斉藤勝彦（庄瀬第2）　準優勝＝岡田市太郎（臼井）　3位＝山岸正宜（古川）　4位＝内山勇（魚町）　5位＝吉田竹也（一の町）　6位＝栗林重政（上鷺ノ木）　ベストグロス＝大沼昕雄（葵町）

●市ゲートボール大会

（9月10日。根岸小学校グラウンド各チームから選抜の20チーム参加）

優勝＝上塩俵A　準優勝＝高井A　3位＝根岸B

●三市中東蒲早朝野球選手権大会

（本市からの入賞チーム）

（9月7日・総合体育施設グラウンド）

3位＝キャンディーズ

●第6回佐々木信也杯中学校野球大会

（9月14日、白根一中、総合体育施設グラウンド）

優勝＝白根一中B、2位＝白根一中A、3位＝大鷺中、庄瀬中

青少年健全育成を目的に、元プロ野球選手の同氏から、市内中学生に指導してもらったのを記念して、ロータリークラブが毎年行っている大会です。

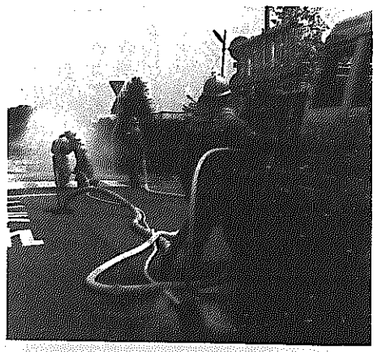
消防体制を充実

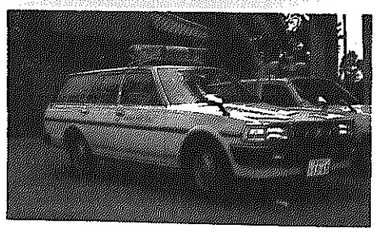
白根地区消防本部は、消防体制の充実に力を入れています。

その第一は、消防車の購入です。この消防車は、高圧ポンプが取り付けられている高性能車で、市役所前でお披露目を行った後、小須戸分署に配備され、同分署にとって二台目の配備となりました。

第二は広報車二台の購入です。広報車は、日ごろは「火の用心」などを呼びかけていますが、火災発生の場合は人員輸送や連絡など大切な役割りを果たすことになり、一台は小須戸分署に一台は本署にそれぞれ配備されました。

第三は訓練塔の建設です。最近消防署前を通った人は、高い塔があるのに気が付いたと思いますが、これは、消防署管内にも、最近高い建物が増えたため、それに対応した消火や救助活動を行うための訓練施設です。





行政組織機構を見直し11月末答申

八月一日に発足した市行政組織機構検討プロジェクトチームは、来年四月実施に向け、現状分析や各課へのヒヤリングを行うなど作業を進めています。

今回の発足は、市民サービスの向上やコンピューター導入など新しい時代に対応した組織づくりと、今年三月に決定した第三次総合計画を推進するための体制づくりが目的です。

メンバーは、課長補佐、係長の十人で、同チームで組織機構の見直しを行うのは五十二年以来九年ぶり。今後の予定として、十月中旬に中間答申し、十一月末には市長へ答申することにしています。